

2011/9/12

柏の景気情報（平成23年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年8月分）

○ 調査期間 : 平成23年8月24日 ~ 8月30日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	118	69.0%
建設	47	30	63.8%
製造	36	27	75.0%
卸・小売	49	37	75.5%
サービス	39	24	61.5%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年7月の調査結果のポイント】

《 業況DIはやや悪化 原発の影響や円高にさらなる懸念 》

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.5(前月水準▲28.1)となり、マイナス幅が▲7.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が拡大し、幅の大きい順に、製造業▲37.0(同▲24.0)、卸小売業▲54.0(同▲43.2)、サービス業▲20.8(同▲15.7)、建設業▲23.3(同▲20.6)である。

【建設業】からは、「地震による影響の屋根の改修、耐震補強工事が年内は続きそうです。住宅エコポイントが終わり、今後の受注に影響が心配」、「公共工事もあるが全体的に予算が厳しい。材料は上昇してきて採算が取れない。先行き不安で新設の工事は見合わせ、改修でしのいでいる」、「8月はゲリラ豪雨などの天候不順により仕事の進み具合が予定通りいかず余分な人員を配置しなければならず採算が合わない現場があった」、「建築物件の減少による受注工事の競争が激しく単価下げを要求されている。また、工事が少ない中で材料は高騰し非常に困っている。単純にゼネコンからの希望価格から材料価格工賃を差し引いて手元に残る金額は何もない状態の物件でも資金繰りに困っている業者は赤字覚悟で受注しているようだ。そのような案件が数件あり断っているが、現に施工する業者がいるということで単価は下がる一方となっている。」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「福島原発関連の受注は8月に入り減少傾向。かなり落ち着いてきた感じである」、「8月は節電の関係で得意先工場の夏季休暇が長期化したことから売上が減少した。また、原材料の値上げが動きがあり、今後の対応が難しくなりそうだ」、「8月中旬までは忙しく急ぎの仕事が多かったが、下旬以降の仕事量がとても少ない」、「」などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「暑い日が続き軽衣料を中心とした低価格商品が順調に売れている。秋物商品は気温が高く動いていない」、「8月前半真夏日が続いた影響や未だに続いていると思われる個人消費低迷などで、売上が前年より伸び悩みました。今後残暑が厳しいようならまだまだ低迷が続きそうです」、「風評被害の影響が生鮮産品以外にも出ています。町の飲食店の不調の影響で売り上げも伸び悩んでいます」、「商品仕入価格上昇中で売値に転嫁せざるを得ない」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「法人需要は宿泊宴会とともに復調傾向にある。節電に対するご利用客のご理解も得られている」、「猛暑のためか客足が鈍いのと夏休みや営業時間の短縮があり、売上減少。近隣に大型スーパーが近日オープン予定で更に販売競争が激化しそうだ。商品(石油製品)の値上がりが続く。この仕入れに手当てするため資金の借入れが有り、また、早期取引で、倉庫は満杯」、「これからの秋冬の業況が心配です」などの声が寄せられた。

◎原発事故の影響

各業種から、「当社にとって直接の円高の影響は無いものの、原発の影響から柏近辺の新築マンション、ビルの工事は全くない。一方住宅のリフォーム等は前年度より増えた(その他の職別工事業)」、「食料品部門では精肉ハムの売り場にて、放射能やセシウム問題の影響がみられた(百貨店)」、「東葛飾地区の放射能ホットスポットの影響で今後益々大きな問題になっていくように感じています。どう考えても市の対応は遅すぎます。独自の基準と放射線量除去の対策をお願いしたいです(各種食料品小売業)」、「柏市のホットスポットの影響から、消費者への安全安心を図るため、市産の農産物放射能の検査をし、その結果をHPに掲載しています。しかし風評被害や購買意欲の低迷で厳しい状況となっています(食料・飲料卸売業)」、「不動産市況は放射能のホットスポットの影響で賃貸業のお客様が大幅に減っている。売買のお客様も当然減っています。売買価格もダウン(不動産代理業・仲介業)」、「ホットスポットなどと冗談交じりで言っている場合ではなくなりました。自社の共同住宅の住人も放射能には敏感になり、退去した後の他地域からの転入は難しいと思います。柏市全体で考えなくてははいけない時期が来ました(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎節電の影響

各業種から、「得意先銀行の曜日出勤変更の節電対策と一般企業の通常出勤のため生産性や能率が低下の影響があるので通常に戻した(その他の金属製品製造業)」、「8月については業界全体として稼働日数が少ない事もあり出荷量が減少してしまう。また、節電の影響もあると思う(一般産業用機械・装置製造業)」、「価格が下がったものだけを購入していく。今までどれくらい下がったのかをお客様は気にしている。電力不足により冬物も節電できる暖房機器に人気が集まる。石油ストーブや湯たんぽカイロ等(その他の各種商品小売業)」、「宿泊は、節電の影響もあり長期連休に入る企業が多くビジネス需要が減少、放射能の影響で外人客の減少も重なり厳しい月であった。宴会は、5月頃に8月開催の同窓会の問い合わせがあったが、計画停電等がはっきりせず開催見合わせとなる。宿泊、宴会共に厳しい月であった(ホテル)などのコメントが寄せられた。

◎円高

各業種から、「円高により収益悪化、輸出を減らし国内向けの受注に注力するが取引先業界の内需縮小傾向により今後も大変厳しい状況が続くと思われる(織物業)」、「円立て契約の為、海外ユーザーより更なるコスト低減の依頼があった。震災円高により景気が上がらず設備導入も困難(その他の機械・同部品製造業)」、「円高の割には輸入食材に反映されず、一番影響があるバター等乳製品は値上げ(菓子・パン小売業)」、「個人旅行は円高の影響を受けて海外旅行が好調だったため前年並みに戻ってきた。ただ先行きは秋の旅行シーズンで法人需要の動きに注目したい。円高が続くようだと景況感に影響が出かねない(旅行業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲49.2	▲42.8	▲33.3	▲58.6	▲50.0
4月	▲44.0	▲38.8	▲37.0	▲59.4	▲37.0
5月	▲37.6	▲32.3	▲28.0	▲48.7	▲36.0
6月	▲33.3	▲26.4	▲30.7	▲60.5	±0.0
7月	▲28.1	▲20.6	▲24.0	▲43.2	▲15.7
8月	▲35.5	▲23.3	▲37.0	▲54.0	▲20.8
見通し	▲26.2	▲13.3	▲29.6	▲40.5	▲16.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.5(前月水準▲28.1)となり、マイナス幅が▲7.4ポイント拡大した。

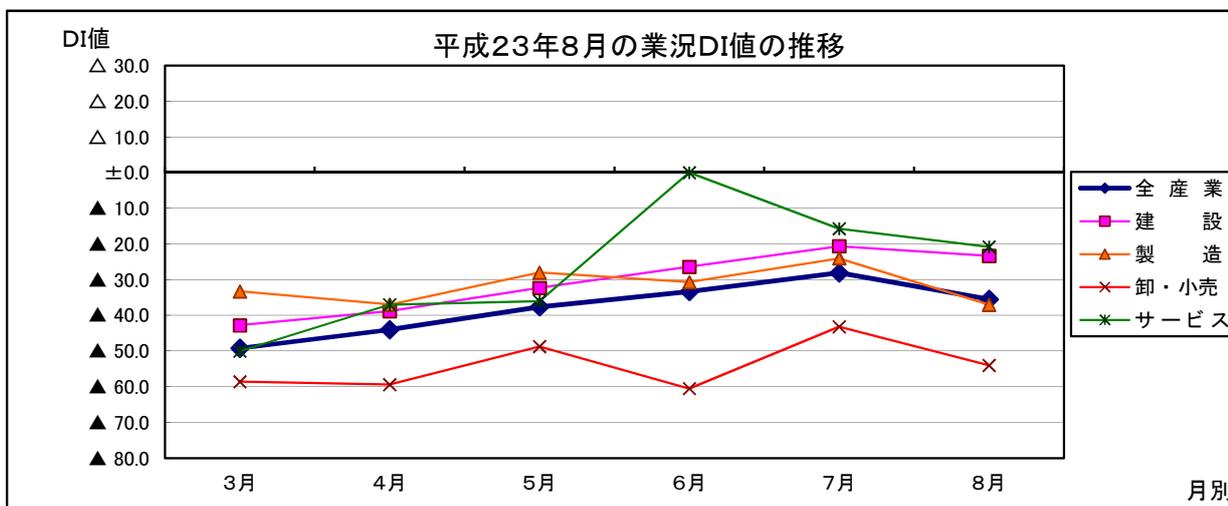
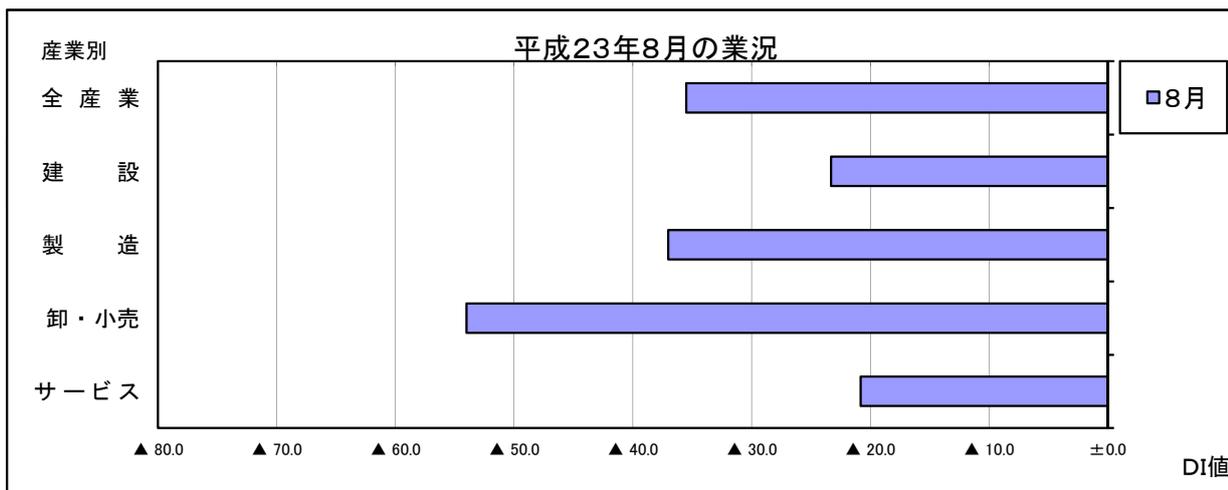
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が拡大し、幅の大きい順に、製造業▲37.0(同▲24.0)、卸小売業▲54.0(同▲43.2)、サービス業▲20.8(同▲15.7)、建設業▲23.3(同▲20.6)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.2(前月水準▲22.7)となり、マイナス幅が▲3.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲16.6(同▲21.0)、建設業▲13.3(同▲13.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.6(同▲16.0)、卸小売業▲40.5(同▲35.1)である。

平成23年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲49.2	▲44.0	▲37.6	▲33.3	▲28.1	▲35.5	▲26.2(▲22.7)
建設	▲42.8	▲38.8	▲32.3	▲26.4	▲20.6	▲23.3	▲13.3(▲13.7)
製造	▲33.3	▲37.0	▲28.0	▲30.7	▲24.0	▲37.0	▲29.6(▲16.0)
卸・小売	▲58.6	▲59.4	▲48.7	▲60.5	▲43.2	▲54.0	▲40.5(▲35.1)
サービス	▲50.0	▲37.0	▲36.0	±0.0	▲15.7	▲20.8	▲16.6(▲21.0)



【平成23年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.7(前月水準▲19.0)となり、マイナス幅が1.3ポイント縮小した。

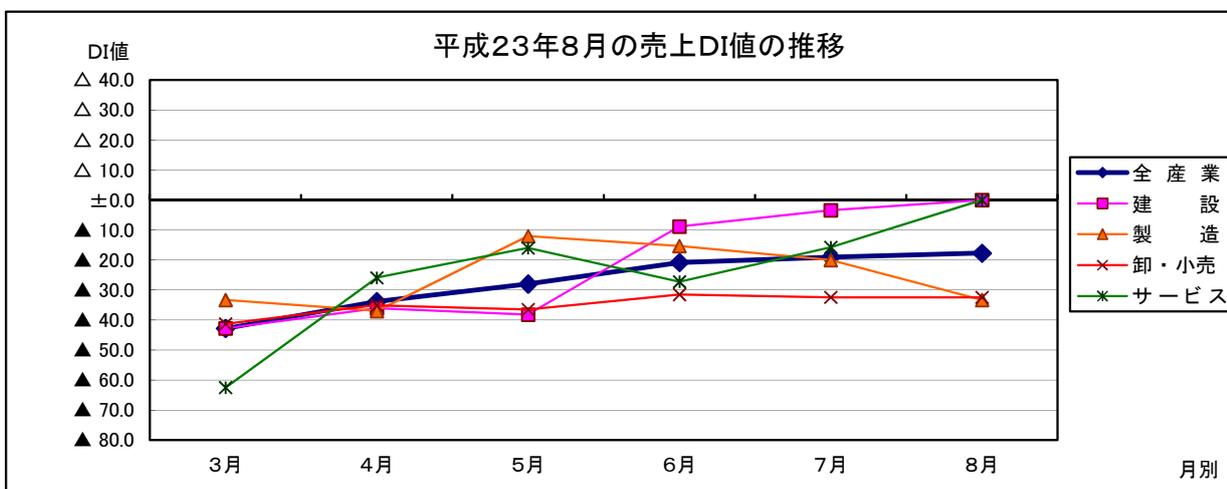
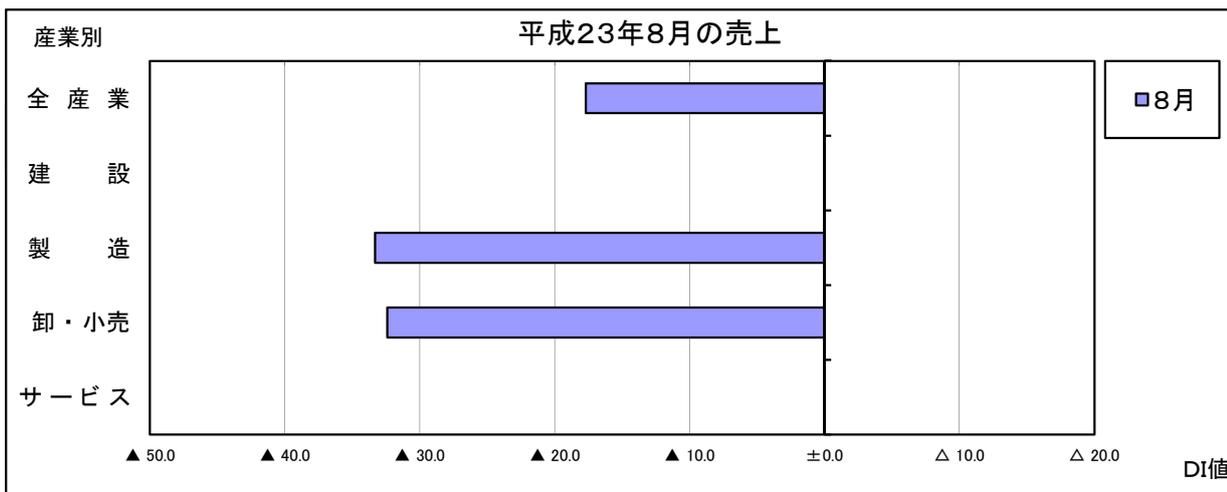
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲15.7)、建設業±0.0(同▲3.4)である。変らない業種は、卸小売業▲32.4(同▲32.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲33.3(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.5(前月水準▲11.8)となり、マイナス幅が9.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△8.3(同▲15.7)であり、24.0ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲7.4(同▲24.0)、卸小売業▲21.6(同▲27.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業16.6(同20.6)である。

平成23年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲42.8	▲33.8	▲28.0	▲20.8	▲19.0	▲17.7	▲2.5(▲11.8)
建設	▲42.8	▲36.1	▲38.2	▲8.8	▲3.4	±0.0	△16.6(△20.6)
製造	▲33.3	▲37.0	▲12.0	▲15.3	▲20.0	▲33.3	▲7.4(▲24.0)
卸・小売	▲41.3	▲35.1	▲36.5	▲31.5	▲32.4	▲32.4	▲21.6(▲27.0)
サービス	▲62.5	▲25.9	▲16.0	▲27.2	▲15.7	±0.0	△8.3(▲15.7)



【平成23年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.0(前月水準▲29.0)となり、マイナス幅が▲4.0ポイント拡大した。

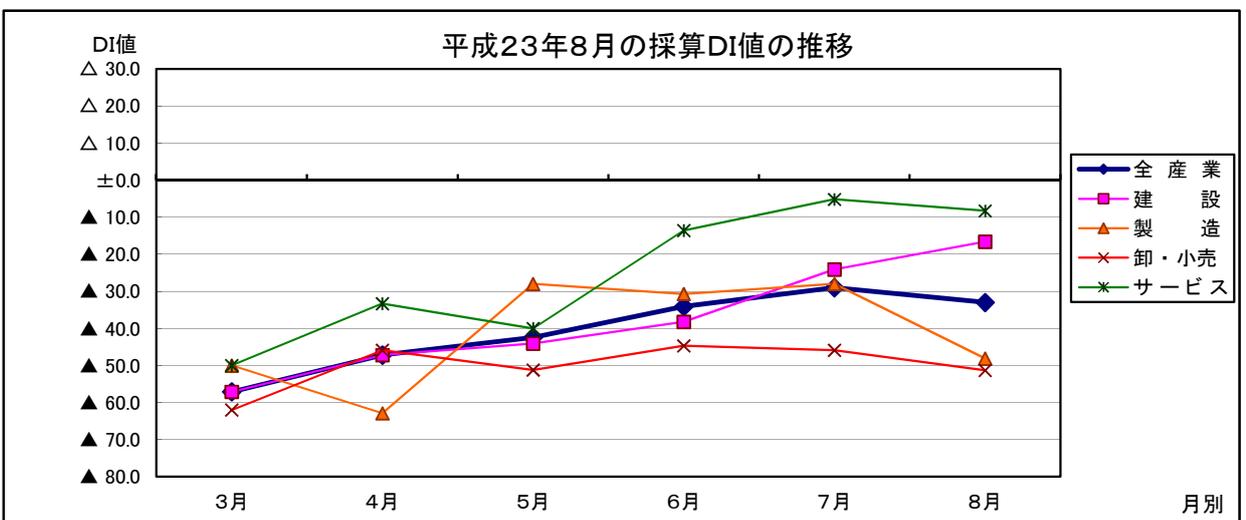
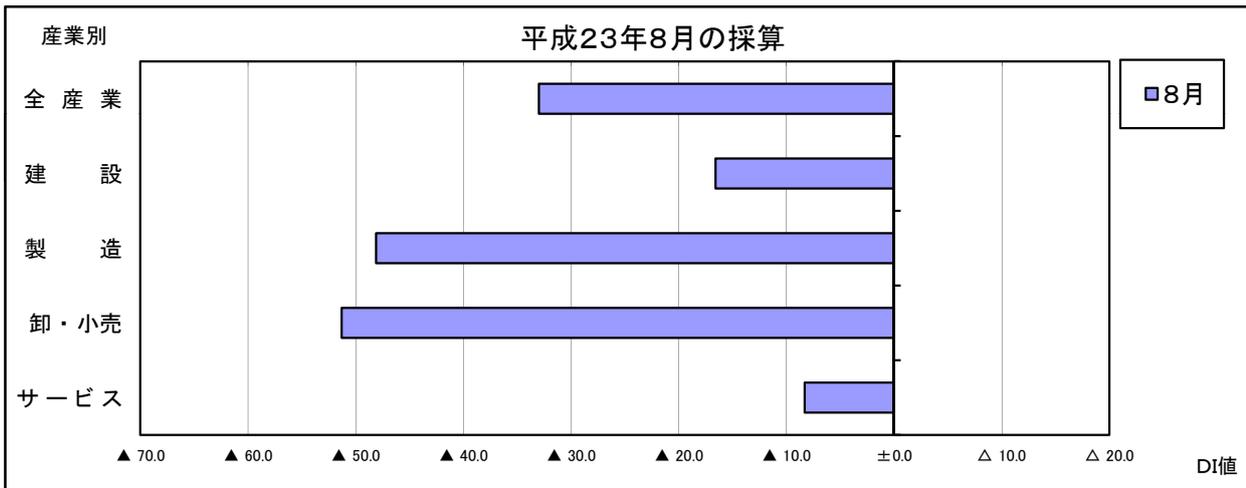
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲16.6(同▲24.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲48.1(同▲28.0)、卸小売業▲51.3(同▲45.9)、サービス業▲8.3(同▲5.2)である。特に、製造業はマイナス幅が▲20.1ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.7(前月水準▲21.8)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業4.1(同▲10.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲29.6(同▲40.0)である。変わらない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲37.8(同▲32.4)である。

平成23年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲ 57.1	▲ 47.2	▲ 42.4	▲ 34.1	▲ 29.0	▲ 33.0	▲ 17.7 (▲ 21.8)
建設	▲ 57.1	▲ 47.2	▲ 44.1	▲ 38.2	▲ 24.1	▲ 16.6	±0.0 (±0.0)
製造	▲ 50.0	▲ 62.9	▲ 28.0	▲ 30.7	▲ 28.0	▲ 48.1	▲ 29.6 (▲ 40.0)
卸・小売	▲ 62.0	▲ 45.9	▲ 51.2	▲ 44.7	▲ 45.9	▲ 51.3	▲ 37.8 (▲ 32.4)
サービス	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 40.0	▲ 13.6	▲ 5.2	▲ 8.3	△ 4.1 (▲ 10.5)



【平成23年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.4(前月水準▲46.3)となり、マイナス幅が9.9ポイント縮小した。

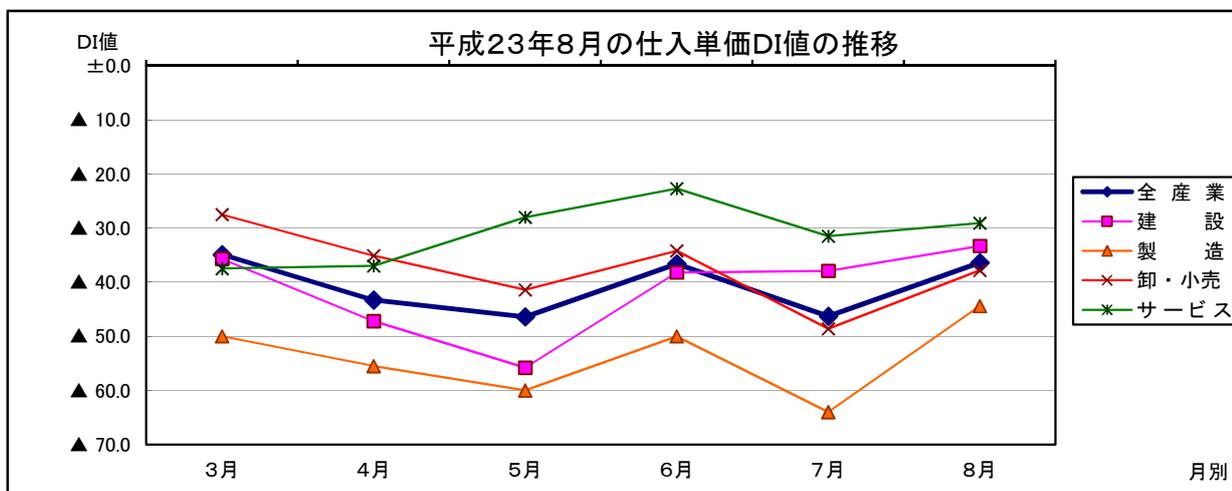
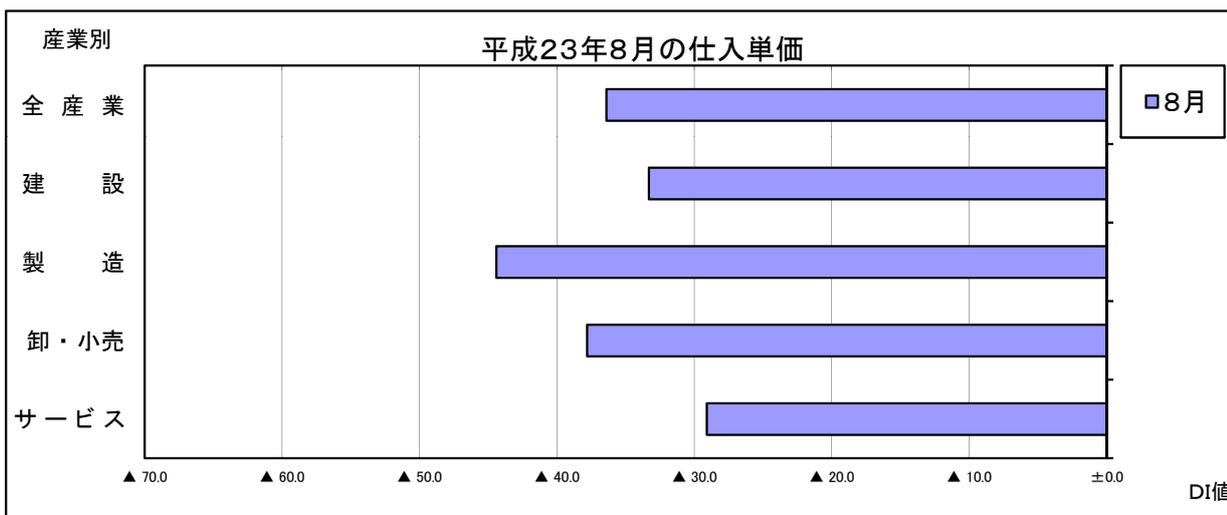
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲44.4(同▲64.0)、卸小売業▲37.8(同▲48.6)、建設業▲33.3(同▲37.9)、サービス業▲29.1(同▲31.5)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.0(前月水準▲31.8)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲37.0(同▲44.0)、建設業▲30.0(同▲34.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲43.2(同▲29.7)、サービス業▲16.6(同▲15.7)である。

平成23年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲34.9	▲43.3	▲46.4	▲36.6	▲46.3	▲36.4	▲33.0(▲31.8)
建設	▲35.7	▲47.2	▲55.8	▲38.2	▲37.9	▲33.3	▲30.0(▲34.4)
製造	▲50.0	▲55.5	▲60.0	▲50.0	▲64.0	▲44.4	▲37.0(▲44.0)
卸・小売	▲27.5	▲35.1	▲41.4	▲34.2	▲48.6	▲37.8	▲43.2(▲29.7)
サービス	▲37.5	▲37.0	▲28.0	▲22.7	▲31.5	▲29.1	▲16.6(▲15.7)



【平成23年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.7(前月水準▲9.0)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小した。

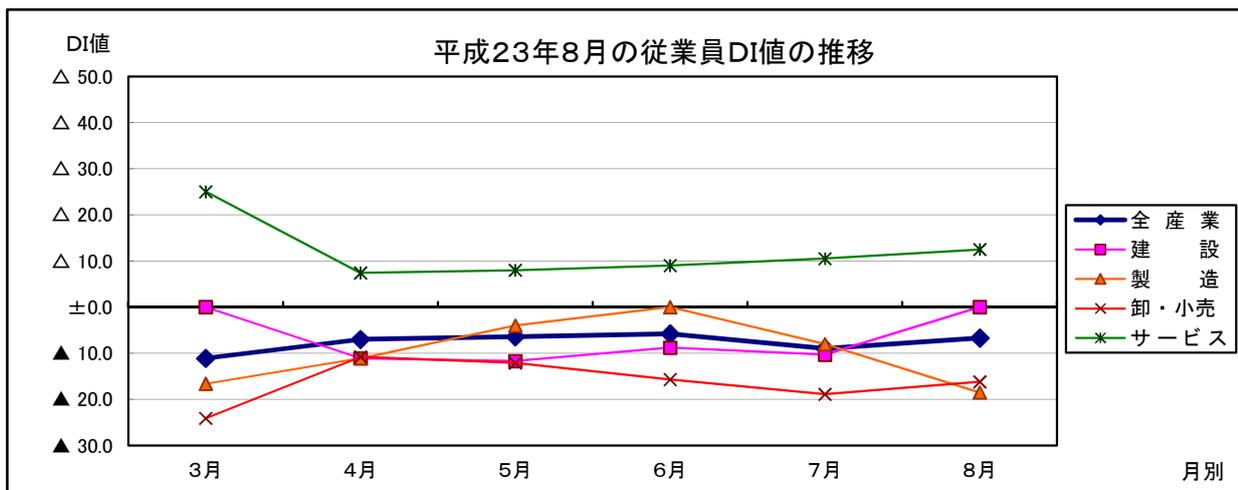
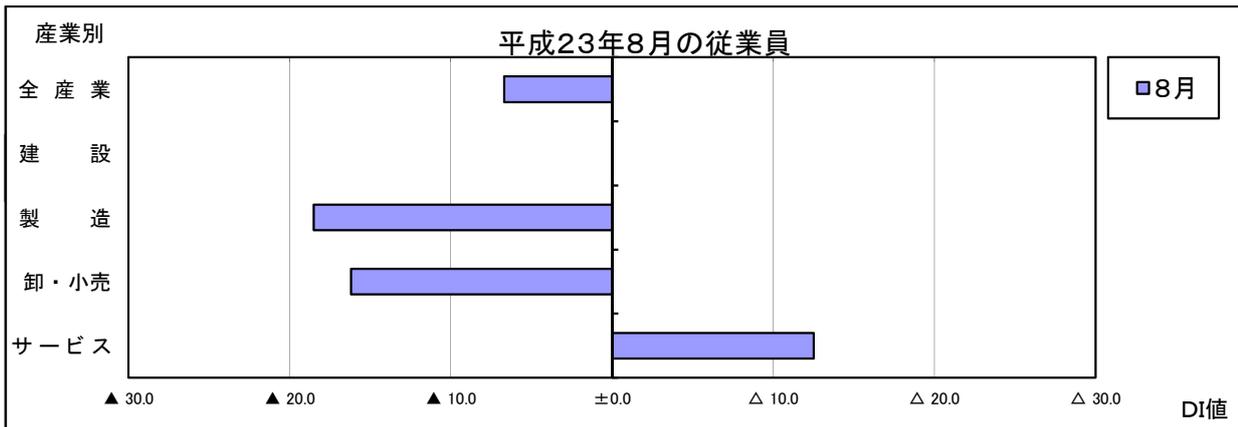
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業12.5(同10.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲10.3)、卸小売業▲16.2(同▲18.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲18.5(同▲8.9)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.2(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業8.3(同5.2)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲13.5(同▲13.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業3.3(同6.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲4.0)である。

平成23年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲11.1	▲7.0	▲6.4	▲5.8	▲9.0	▲6.7	▲4.2(▲2.7)
建設	±0.0	▲11.1	▲11.7	▲8.8	▲10.3	±0.0	△3.3(△6.8)
製造	▲16.6	▲11.1	▲4.0	±0.0	▲8.0	▲18.5	▲11.1(▲4.0)
卸・小売	▲24.1	▲10.8	▲12.1	▲15.7	▲18.9	▲16.2	▲13.5(▲13.5)
サービス	△25.0	△7.4	△8.0	△9.0	△10.5	△12.5	△8.3(△5.2)



【平成23年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大した。

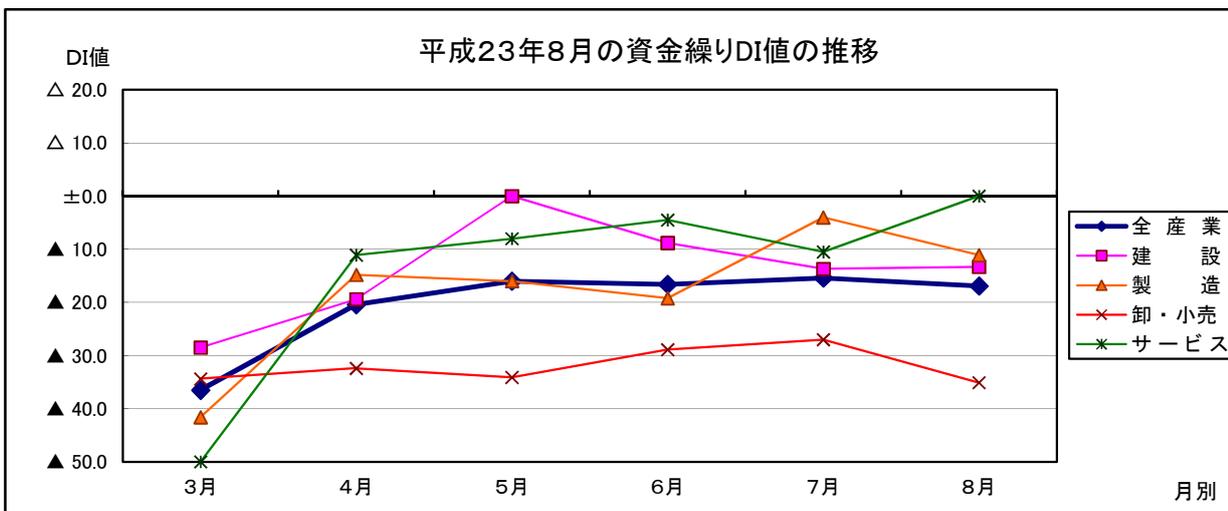
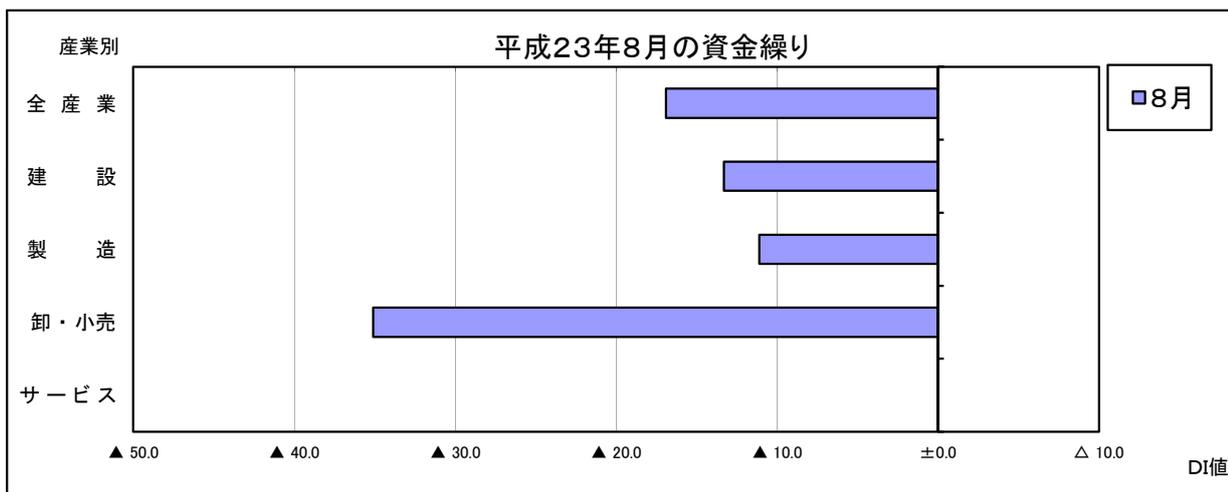
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(▲10.5)、建設業▲13.3(同▲13.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲35.1(同▲27.0)、製造業▲11.1(同▲4.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.9(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が▲4.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲10.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲10.0(同6.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.0(同▲21.6)、製造業▲25.9(同▲24.0)である。

平成23年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲36.5	▲20.4	▲16.0	▲16.6	▲15.4	▲16.9	▲16.9(▲12.7)
建設	▲28.5	▲19.4	±0.0	▲8.8	▲13.7	▲13.3	▲10.0(△6.8)
製造	▲41.6	▲14.8	▲16.0	▲19.2	▲4.0	▲11.1	▲25.9(▲24.0)
卸・小売	▲34.4	▲32.4	▲34.1	▲28.9	▲27.0	▲35.1	▲27.0(▲21.6)
サービス	▲50.0	▲11.1	▲8.0	▲4.5	▲10.5	±0.0	±0.0(▲10.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.7	▲ 2.5	▲ 33.0	▲ 17.7	▲ 36.4	▲ 33.0	▲ 6.7	▲ 4.2
建設	±0.0	△ 16.6	▲ 16.6	±0.0	▲ 33.3	▲ 30.0	±0.0	△ 3.3
製造	▲ 33.3	▲ 7.4	▲ 48.1	▲ 29.6	▲ 44.4	▲ 37.0	▲ 18.5	▲ 11.1
卸・小売	▲ 32.4	▲ 21.6	▲ 51.3	▲ 37.8	▲ 37.8	▲ 43.2	▲ 16.2	▲ 13.5
サービス	±0.0	△ 8.3	▲ 8.3	△ 4.1	▲ 29.1	▲ 16.6	△ 12.5	△ 8.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 35.5	▲ 26.2	▲ 16.9	▲ 16.9
建設	▲ 23.3	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 10.0
製造	▲ 37.0	▲ 29.6	▲ 11.1	▲ 25.9
卸・小売	▲ 54.0	▲ 40.5	▲ 35.1	▲ 27.0
サービス	▲ 20.8	▲ 16.6	±0.0	±0.0

【平成23年8月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	地震による影響の屋根の改修、耐震補強工事が年内は続きそうです。住宅エコポイントが終わり、今後の受注に影響が心配	耐震工事 住宅エコポイント	一般土木建築工事業
	震災需要は夏までとと思っていましたがここに来て、震災関連の補修が増加しています。それだけ規模が今までにないものだったこと、また同補修を行うかの決定に時間がかかったことを改めて実感しました。相変わらず新築は低迷のままです。遠く離れた柏の状況を見ただけでも被災地がどれだけ大変か想像に耐えません	震災需要 新規低迷	石工れんがタイルブロック工事業
	公共工事もあるが全体的に予算が厳しい。材料は上昇してきて採算が取れない。先行き不安で新設の工事は見合わせ、改修でしのいでいる	公共工事 材料高騰 不採算 先行き不安	電気工事業
	学校関係の補修工事も受注減。放射能汚染の処理の問い合わせがあるも見通しは不明	公共工事 放射能汚染処理 先行き不透明	土木工事業
	8月はゲリラ豪雨などの天候不順により仕事の進み具合が予定通りいかず余分な人員を配置しなければならず採算が合わない現場があった	天候の影響 不採算	塗装工事業
	公共工事が減少	公共工事	造園工事業
	公共工事、民間工事ともに受注が増えてきている。8月まではフル稼働で動いていたが9月頃になると少し落ち着くので9月以降のお客様の受注をこなしていきたい	受注増加	塗装工事業
	建築物件の減少による受注工事の競争が激しく単価下げを要求されている。また、工事が少ない中で材料は高騰し非常に困っている。単純にゼネコンからの希望価格から材料価格工賃を差し引いて手元に残る金額は何もない状態の物件でも資金繰りに困っている業者は赤字覚悟で受注しているようだ。そのような案件が数件あり断っているが、現に施工する業者がいるということで単価は下がる一方となっている。当社にとって直接の円高の影響は無いものの、原発の影響からか柏近辺の新築マンション、ビルの工事は全くない。一方住宅のリフォーム等は前年度より増えた	受注競争 材料高騰 資金繰り困難 単価下落 原発の影響	その他の職別工事業
	震災の影響による住宅建設の件数減少、着工遅れ	震災の影響 工事減少 着工遅れ	ガス業
	年内の仕事量(見積もり)が増えてきた感じです。単価はかわっていませんが仕入が少し下落してきているのでこのままの仕事量が続けば業績も好転しそうです	見積もり増加 単価不変	鉄骨鉄筋工事業
8月はお盆休みもあり、売上高が減少します。お盆に畳の部屋で集まり方という和の文化が戻ってくると畳張り替え需要が増えると思うが…。9月から工事の需要が増える事を祈ります。	夏季休暇 売上減少 9月増加	内装工事業	
製造	円高により収益悪化、輸出を減らし国内向けの受注に注力するが取引先業界の内需縮小傾向により今後も大変厳しい状況が続くと思われる	円高 国内発注 内需縮小 厳しい業況	織物業
	売上高は回復傾向に向かっている	売上回復	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	得意先より円高対策によるコストダウンの依頼あり。対応に苦慮。	円高 コストダウン	金属素形材製品製造業
	福島原発関連の受注は8月に入り減少傾向。かなり落ち着いてきた感じである	原発の影響 受注減少	特殊産業用機械
	円建て契約の為、海外ユーザーより更なるコスト低減の依頼があった。震災円高により景気が上がらず設備導入も困難	円高 コスト低減 設備導入困難	その他の機械・同部品製造業
	得意先銀行の曜日出勤変更の節電対策と一般企業の通常出勤のため生産性や能率が低下の影響があるので通常に戻した	変動出勤 節電対策 生産性低下	その他の金属製品製造業
	お盆休みで8月は稼働日数が少ない分売上は毎年少ないが今年はいつも以上に業界は動いていません	夏季休暇 売上減少 業界動き無し	印刷業

【平成23年8月の業種別業界内トピックス】

	8月は節電の関係で得意先工場の夏季休暇が長期化したことから売上が減少した。また、原材料の値上げが動きがあり、今後の対応が難しくなりそうだと。	節電対策 夏季休暇 売上減少	紙製容器製造業
	メーカーでの在庫ダブつき及び節電による操業率の悪化であるが9月以降の注文は多少戻ってきている	在庫過剰 節電対策 操業率悪化 受注回復	電子部品・デバイス製造業
	8月については業界全体として稼働日数が少ない事もあり出荷量が減少してしまう。また、節電の影響もあると思う。今後は出荷量の増加見通しであるが引き続き円高の影響が懸念される	稼働日数 出荷量減少 節電の影響 円高	一般産業用機械・装置製造業
	円高基調を背景に為替差損の影響は懸念される	円高	ガラス・同製品製造業
	8月中旬までは忙しく急ぎの仕事が多かったが、下旬以降の仕事量がとても少ない	仕事量減少	建築用・建設用金属製品製造業
	設備投資の減少で先行き不透明が続いています	設備投資減少 先行き不透明	その他の機械・同部品製造業
	昨年に比べ秋物の出は好調であるが本来シーズン初めは比較的高額品が売れるのだが本年は低額中級品で値ごろ品が中心で単価が下がっている。業者的には早めに納品し秋物は売り逃げ状態	秋物好調 低額商品 単価下降	婦人・子供服小売業
	円高によるセール実施。価格が下がったものだけを購入していく。今までどれくらい下がったのかをお客様は気にしている。電力不足により冬物も節電できる暖房機器に人気が集まる。石油ストーブや湯たんぼカイロ等	円高 値下げ 電力不足 節電商品	その他の各種商品小売業
	7月売上は前年比+0.7、8月度はほぼ前年並みの推移。台風6号の影響もあり、入店客数は前年を切りマイナス2%の結果となった。8月下旬他店舗の閉店セールを実施、売上のかさ上げにもつながった。食料品部門では精肉ハムの売り場にて、放射能やセシウム問題の影響がみられた	天候の影響 入店客数減少 放射能の影響	百貨店
	県内で同業者が倒産した。最大の理由は安売りで利益率の悪化らしい。ネット通販等の影響でそれらと同価格の納品を強いられているのがつらい	同業者倒産 利益率悪化 ネット通販	書籍・文房具小売業
	8月度初旬は婦人服で晩夏物のプロパー商材が動いたほか、クール商材などの節電商材が依然好調であったことから、売上高は中旬まで順調な推移となった。中旬以降、天候不順により気温が低下し、客数が落ち込みをみせたことから、売上高も影響を受けた。25日からテナントセールを開催、初日売上は前年・予算を大きく上回り好調な出足となり、館内の集客にも繋がった。こちらは31日まで開催することから、今後も館内外の告知を強化し、他業種への波及効果を図り売上に繋げていく。	節電商材 天候の影響 集客セール	その他の各種商品小売業
	暑い日が続き軽衣料を中心とした低価格商品が順調に売れている。秋物商品は気温が高く動いていない	天候の影響 軽衣料順調 秋物苦戦	その他の各種商品小売業
	東葛飾地区の放射能ホットスポットの影響で今後益々大きな問題になっていくように感じています。どう考えても市の対応は遅すぎます。独自の基準と放射線量除去の対策をお願いしたいです。	ホットスポット 放射線除去	各種食料品小売業
	8月前半真夏日が続いた影響や未だに続いていると思われる個人消費低迷などで、売上が前年より伸び悩みました。今後残暑が厳しいようならまだまだ低迷が続きそうです	天候の影響 個人消費低迷	菓子・パン小売業
	東日本大震災での原発事故後の食肉関係は大変悪化している。先行き見通しも悪く今年の見通しも良くない。明るい景気が来るまで努力のみです	原発の影響 食肉問題 先行き不安	食肉小売業
	風評被害の影響が生鮮産品以外にも出ています。町の飲食店の不調の影響で売り上げも伸び悩んでいます	風評被害 飲食店不調	農畜産物・水産物卸売業
	春に近隣に開店したスーパーの影響が出てきた。売上減少している。対前年はたばこの値上げに伴う買いだめで売上高が高かったのが今年は厳しい	競合店の影響 売上減少	その他の各種商品小売業
	円高の割には輸入食材に反映されず、一番影響があるバター等乳製品は値上げ	円高 材料高騰	菓子・パン小売業

卸小売

【平成23年8月の業種別業界内トピックス】

	<p>主要な野菜は入荷増、単価安の動きで、果実は入荷増の単価ではばらつきがあります。総体的に入荷増だが安値取引から売上は減少しています。柏市のホットスポットの影響から、消費者への安全安心を図るため、市産の農産物放射能の検査をし、その結果をHPIに掲載しています。しかし風評被害や購買意欲の低迷で厳しい状況となっています。</p> <p>生コンは原材料価格の上昇に対して売価への転嫁を慎重に見ているため採算ベースでは悪化するが前年比に対して売上比率150%位になる為増加。また先行きに関しては売上は不変採算は減少する見込み。売上が上がった分の入金があるので資金繰りは好転する。産廃業は8月より無巻きの受入れを停止したため比率は90%位になるため減少。トータルでは売上増加採算ベースは少々増加。今後は無巻きを抜いた高い水準で推移すると思われトータルでは不変となる</p> <p>今月LPガス販売の勧誘販売員が逮捕された。営業内容に虚偽ありでTNでも報道されたが、他業者もそれと近い内容で勧誘しているところもあり、LPガス協会も真剣に対応し協力して、やる気ある販売員を保護すべきだ</p>	<p>青果単価安 売上減少 ホットスポット 風評被害 安心安全</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>商品仕入価格上昇中で売値に転嫁せざるを得ない</p>	<p>仕入価格上昇 価格転嫁</p>	<p>塗料卸売業</p>
	<p>宴会予約のお客様は増加した。が飛び込みではやはり減少している</p>	<p>宴会増加</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
	<p>宿泊は、節電の影響もあり長期連休に入る企業が多くビジネス需要が減少、放射能の影響で外人客の減少も重なり厳しい月であった。宴会は、5月頃に8月開催の同窓会の問い合わせがあったが、計画停電等がはっきりせず開催見合わせとなる。宿泊、宴会共に厳しい月であった。</p>	<p>節電の影響 夏季休暇 放射能の影響 外国人客減少 計画停電</p>	<p>ホテル</p>
	<p>一週間のうちで忙しい日の予想ができたが、今年はお客様のいらっしゃる日にムラがあり分からない状況です</p>	<p>先行き不透明</p>	<p>旅館業</p>
	<p>法人需要は宿泊宴会ともに復調傾向にある。節電に対するご利用客のご理解も得られている</p>	<p>法人需要復調</p>	<p>ホテル</p>
	<p>猛暑のためか客足が鈍いのと夏休みや営業時間の短縮があり、売上減少。近隣に大型スーパーが近日オープン予定で更に販売競争が激化しそうだ。商品(石油製品)の値上がりが続く。この仕入れに手当てするため資金の借り入れが有り、また、早期取引で、倉庫は満杯</p>	<p>天候の影響 営業時間短縮 売上減少 販売競争激化 値上がり</p>	<p>その他の飲食料品小売業</p>
	<p>個人旅行は円高の影響を受けて海外旅行が好調だったため前年並みに戻ってきた。ただ先行きは秋の旅行シーズンで法人需要の動きに注目したい。円高が続くようだと景況感に影響が出かねない</p>	<p>円高の影響 海外旅行好調</p>	<p>旅行業</p>
サービス	<p>不動産市況は放射能のホットスポットの影響で賃貸業のお客様が大幅に減っている。売買のお客様も当然減っています。売買価格もダウン。</p>	<p>ホットスポット 客数減少 販売価格下落</p>	<p>不動産代理業・仲介業</p>
	<p>一般のお客様は平常時の三分の二くらいまで回復してきました。一時のショック状態は抜け出したように思います。全体としては様子見の状態です。金融機関も融資に関してより一層慎重になっています</p>	<p>回復傾向</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>ホットスポットなどと冗談交じりで言っている場合ではなくなりました。自社の共同住宅の住人も放射能には敏感になり、退去した後の他地域からの転入は難しいと思います。柏市全体で考えなくてはいけない時期が来ました</p>	<p>ホットスポット 市外転出増加</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>柏市の住環境経済環境は双方総合的に評価されている方だと思えますが、今回の原発事故による放射能の値がわずかながら高めに上がったため、ホットスポットとされるマイナス要因は払しょくする必要があります。報道等でそのことに過剰反応されてる一部の方々の不安を取り除く対応を行政に望みます。柏市ブランドを傷つけることなく更なる地域のイメージ向上に官民一体で取り組み続けたい</p>	<p>ホットスポット 行政の対応</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>

【平成23年8月の業種別業界内トピックス】

<p>現況は厳しく更に震災の影響が好転の歯止めとなり、年度夏季が増して厳しい状況と成り得ると危惧しています。IT企業は人の力が動力となっていることで外国人との単価比較が受注のカギとなっている。これによって大手企業下請けのわが社は株暴落や円高によるあおりが大きく響き案件受注にも影響が大となっている。ただ、我々の技術も必要不可欠な業種であることは間違いなく新規事業展開に向け開拓する必要ありと思っている。まずはこの人材育成の底上げと意識の向上が目標</p>	<p>厳しい業況 震災の影響 単価比較 円高 人材育成</p>	<p>ソフトウェア業</p>
<p>これからの秋冬の業況が心配です</p>	<p>先行き不安</p>	<p>獣医業</p>

◎原発事故の影響

- ・ 当社にとって直接の円高の影響は無いものの、原発の影響からか柏近辺の新築マンション、ビルの工事は全くない。一方住宅のリフォーム等は前年度より増加している。その他の職別工事業
- ・ 食料品部門では精肉ハムの売り場にて、放射能やセシウム問題の影響がみられた。百貨店
- ・ 東葛飾地区の放射能ホットスポットの影響で今後益々大きな問題になっていくように感じています。どう考えても市の対応は遅すぎます。独自の基準と放射線量除去の対策をお願いしたいです。各種食料品小売業
- ・ 柏市のホットスポットの影響から、消費者への安全安心を図るため、市産の農産物放射能の検査をし、その結果をHPに掲載しています。しかし風評被害や購買意欲の低迷で厳しい状況となっています。食料・飲料卸売業
- ・ 不動産市況は放射能のホットスポットの影響で賃貸業のお客様が大幅に減っている。売買のお客様も当然減っています。売買価格もダウン。不動産代理業・仲介業
- ・ ホットスポットなどと冗談交じりで言っている場合ではなくなりました。自社の共同住宅の住人も放射能には敏感になり、退去した後の他地域からの転入は難しいと思います。柏市全体で考えなくてはいけない時期が来ました。不動産賃貸業

◎節電の影響

- ・ 得意先銀行の曜日出勤変更の節電対策と一般企業の通常出勤のため生産性や能率が低下の影響があるので通常に戻した。その他の金属製品製造業
- ・ 8月については業界全体として稼働日数が少ない事もあり出荷量が減少してしまう。また、節電の影響もあると思う。一般産業用機械・装置製造業
- ・ 価格が下がったものだけを購入していく。今までどれくらい下がったのかをお客様は気にしている。電力不足により冬物も節電できる暖房機器に人気が集まる。石油ストーブや湯たんぽカイロ等。その他の各種商品小売業
- ・ 宿泊は、節電の影響もあり長期連休に入る企業が多くビジネス需要が減少、放射能の影響で外人客の減少も重なり厳しい月であった。宴会は、5月頃に8月開催の同窓会の問い合わせがあったが、計画停電等がはっきりせず開催見合わせとなる。宿泊、宴会共に厳しい月であった。ホテル

◎円高

- ・ 円高により収益悪化、輸出を減らし国内向けの受注に注力するが取引先業界の内需縮小傾向により今後も大変厳しい状況が続くと思われる。織物業
- ・ 円建て契約の為、海外ユーザーより更なるコスト低減の依頼があった。震災円高により景気が上がらず設備導入も困難。その他の機械・同部品製造業
- ・ 円高の割には輸入食材に反映されず、一番影響があるバター等乳製品は値上げ。菓子・パン小売業
- ・ 個人旅行は円高の影響を受けて海外旅行が好調だったため前年並みに戻ってきた。ただ先行きは秋の旅行シーズンで法人需要の動きに注目したい。円高が続くようだと景況感に影響が出かねない。旅行業

平成23年8月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲35.5に対し、「CCI-LOBO」が▲36.5で、柏の方がマイナス幅が1.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.7に対し、「CCI-LOBO」が▲31.7で、柏の方がマイナス幅が14.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.0に対し、「CCI-LOBO」が▲29.7で、柏のほうマイナス幅が3.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.4に対し、「CCI-LOBO」が▲29.2で、柏の方がマイナス幅が7.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.7に対し、「CCI-LOBO」が▲5.6で、柏の方がマイナス幅が1.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.9に対し、「CCI-LOBO」が▲23.0で、柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。

平成23年8月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 35.5	 23.3	 37.0	 54.0	 20.8
CCI LOBO	 36.5	 48.4	 28.1	 38.9	 35.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.7	 ±0.0	 33.3	 32.4	 ±0.0
CCI LOBO	 31.7	 38.6	 20.5	 39.4	 28.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 33.0	 16.6	 48.1	 51.3	 8.3
CCI LOBO	 29.7	 40.7	 26.0	 23.0	 36.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.4	 33.3	 44.4	 37.8	 29.1
CCI LOBO	 29.2	 31.8	 38.6	 19.3	 29.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 6.7	 ±0.0	 18.5	 16.2	 12.5
CCI LOBO	 5.6	 13.2	 5.2	 1.4	 2.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.9	 13.3	 11.1	 35.1	 ±0.0
CCI LOBO	 23.0	 33.2	 18.2	 24.6	 25.4

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (8月速報)

調査期間：平成23年7月18日～24日

調査対象：全国の408商工会議所が2866業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは被災地を除き震災前水準を上回るも、先行きへの警戒感が強まる

8月の全産業合計の業況DIは、被災地を除き、36.5(前月比+3.5ポイント)と、4カ月連続でマイナス幅が縮小。7カ月ぶりにマイナス30台となり、震災前の水準(11年2月：40.1)を上回った。

先行きについては、先行き見通しDIが32.7と、今月から+3.8ポイント改善する見通し。自動車メーカーの増産に伴う受注増加や復興需要への期待がみられる。しかし、急激な円高や海外経済の減速など、先行きへの警戒感が強まっている。また、円高や電力不足の長期化等を背景に、取引先による生産・販売拠点の海外移転が進んでおり、幅広い業種にわたって、受注減少や来客数減少など仕事喪失を懸念する声も多い。

産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、建設業、小売業はマイナス幅が拡大したものの、他の3業種は縮小した。特に、卸売業は震災

後落ち込んだ生産・消費の回復に伴い、企業間の取引量が上向いていることから、業況DIが大幅に改善した。もっとも、業況判断の内訳をみると、前年比で「悪化」から「不変」への変化が主で、実態はほぼ横ばい状態。依然として厳しい水準が続いている。

【建設業】「住宅エコポイント制度の終了後、住宅建築の受注が大幅に減少」(土木工事業)、「震災後、高騰していた資材価格が落ち着いている」(一般工事業)、「急激な円高や海外経済の変調による、民間設備投資への影響を懸念。今後の業績見通しが立たない」(しゅんせつ工事業)

【製造業】「震災後に生産が落ち込んだ反動で、8月以降、各取引先が増産計画を打ち出しており、受注が増加」(自動車・同附属品製造業)、「円高・電力不足の影響で、取引先が生産計画を見直すことに伴う受注の減少が危惧される」(医療用機械器具製造業)、「乳製品の放射能検査の費用が増大し、経営を圧迫」(食料品製造業)

【卸売業】「仮設住宅向けの

ふすま・障子・しゅつたん等内装資材の需要が増加」(家具・建具卸売業)、「金価格の高騰に伴い、製造コストが上昇。上昇分を販売価格に転嫁できず、採算が悪化」(ジュエリー製品卸売業)、「茶の放射能汚染問題は一段落したものの、消費者の不安感はまだ残っており、贈答品の売上が低迷」(茶類卸売業)

【小売業】「自動車関連企業の休日変更に伴い、土日の来客数が減少。売上が落ち込んでいる」(総合スーパー)、「新米の放射線汚染による風評被害に加え、生産量減少による価格高騰が心配」(米穀類小売業)、「節電と猛暑により盛夏商品の売上増を見込むも、7月下旬に猛暑が一服した影響で、それ以降の売上が期待ほど伸びていない」(商店街)

【サービス業】「震災後落ち込んでいた宿泊客数がほぼ前年並みの水準まで回復」(旅館)、「荷主である製造業の休日操業により、人件費の増加や休日出勤の調整に悩まされている」(運送業)、「住宅金融支援機構のフラット35S(優良住宅取得支援制度)の1%金利引き下げが前倒しで終了」(2011年

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲45.9	▲59.5	▲35.7	▲37.1	▲46.0	▲51.5
4月	▲57.7	▲60.3	▲50.2	▲51.9	▲58.1	▲66.4
5月	▲54.4	▲56.1	▲48.6	▲59.1	▲54.8	▲57.2
6月	▲51.4	▲52.7	▲40.3	▲59.8	▲51.0	▲59.9
7月	▲40.0	▲45.8	▲32.9	▲47.3	▲35.1	▲45.9
8月	▲36.5	▲48.4	▲28.1	▲35.4	▲38.9	▲35.5
見通し	▲32.7	▲43.0	▲24.0	▲27.8	▲33.1	▲37.1

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

12月31日 9月30日
 するため、先行きが不安
 (不動産取引業)